

## 調査の成果



吉岡大塚古墳の後円部は二段築成で、段の間には幅1.3mの平らな部分(テラス)が巡っています。墳丘斜面には、葺石が葺かれ、墳頂部とテラスには、**円筒埴輪**と**朝顔形埴輪**が並べられています。

墳頂部を地中レーダーによる探査を行ったところ、地表下約50cmと約150cmの深さに木棺の痕跡、または粘土層の存在が確認されました。

## 葺石

発掘調査から後円部と前方部の斜面には、葺石が葺かれていたことがわかりました。

出土した葺石の石材鑑定を行ったところ、原野谷川の河床礫で、ほとんどが砂岩であることがわかりました。形状は丸みを帯びているものを選別し使用しています。葺石の復元は、原野谷川の石を採取し使用しました。



## 埴輪

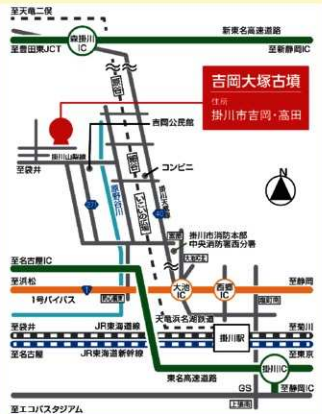
設置した埴輪は、発掘調査で出土した円筒埴輪と朝顔型埴輪の破片から形状を復元しました。

円筒埴輪は市民が制作しました。



円筒埴輪

## Map



## Access



発行/ 〒436-8650 静岡県掛川市長谷一丁目1番地01 TEL/ 掛川市役所 文化・スポーツ振興課 0537-21-1158

## 史跡

# 和田岡古墳群 吉岡大塚古墳



## 史跡 和田岡古墳群 / 吉岡大塚古墳

吉岡大塚古墳は5世紀の中頃に築かれ、全長54.6m、後円部直径41.3m、高さ7mで古墳群の中で3番目の大きさです。

後円部の大きさに比べ、前方部が短い帆立貝に似た形状であることが特徴で、墳丘の周囲に巡る溝(周溝)は、くびれない盾型となっています。

今回の整備は、平成19年度(2007年)から平成26年度(2014年)にかけて行った発掘調査の成果を基に墳丘復元図を作成し、整備を行いました。

整備は、古墳の南側の一部分を古墳築造時の姿に復元、それ以外の部分は形状のみを復元しました。古墳の北側部分は、現況の形状のまま保存しています。古墳築造時から現在に至る時間の経過を墳丘の北側と南側で比較して見学することができます。

帆立貝のような形の吉岡大塚古墳



## 吉岡大塚古墳全体図



古墳時代中期(5世紀頃)に築かれた和田岡古墳群は、掛川市の北西部を流れる原野谷川が形成した河岸段丘の南北約2.5km、東西約1.0kmの範囲に点在しています。

4基の前方後円墳(各和金塚古墳、瓢塚古墳、吉岡大塚古墳、行人塚古墳)と1基の円墳(春林院古墳)は原野谷川中流域を治めた有力者が埋葬されたと推定されます。

東遠江地域において一大古墳群を形成し、古墳の形状や埋葬施設、出土遺物から当時の首長墓の流れを追うことができ、また大和王権との係わりが認められる貴重な古墳群として、平成8年(1996年)3月、国の史跡に指定されました。

春林院古墳から築造が始まり、瓢塚古墳、各和金塚古墳、吉岡大塚古墳の順に築造されたと考えられています。行人塚古墳については、古墳時代中期に築造されたことは確かですが、詳細は不明です。



各和金塚古墳出土 鉄片



瓢塚古墳出土 鏡

2 春林院古墳 (国指定)

- 直径30m
- 高さ5m
- 1968年調査実施



3 行人塚古墳 (国指定)

- 全長43.7m
- 後円部直径25.4m
- 後円部高さ不明
- 1982年調査実施



4 瓢塚古墳 (国指定)

- 全長63.0m
- 後円部直径37.8m
- 後円部高さ5.0m
- 1979年調査実施



5 各和金塚古墳 (国指定)

- 全長66.4m
- 後円部直径51.2m
- 後円部高さ6.5m
- 1977年、1980年調査実施



6 東登口古墳群 (市指定)

- 10m前後の方墳2基、円墳3基で構成。調査未実施

